

人工関節友の会だより

No.5
2016.10.1



病院長 宮尾益尚

人工関節はいつまで保つのか？

猫山宮尾病院・人工関節友の会イベントも今年で第8回を迎えます。年々会員数も増え、当院と会員の皆様は「大家族」の関係となってきました。私共は会員の方々の御意見・御質問を承り、可能な限り適切な回答をお伝えすべく、毎回努力をしているつもりですが、皆様に御理解頂けるお答えが出来ていきますでしょうか？

人工関節に関する疑問点などございましたら、どうぞ遠慮なさらずにお申し付け下さい。すべて完璧とは行きませんが、どこかにその答えがあると信じています。

さて、よくある御質問として、「人工股関節・膝関節はいつまで保つのか？」という事項を今回は取り上げたいと思います。

例えば70歳代で人工関節置換術を受けられる場合、私共医療機関の立場としては「90歳～100歳になっても痛くない関節」を目標に手術を行っているのですが、やはり現実には様々な因子が関係してきます。

手術時の年齢、術前の活動性・運動能力レベル、関節変形の程度、術後リハビリテーションへの取

り組み姿勢、術前術後合併症などなど…。

あまりにも沢山の影響因子があるため、結論を出す事は非常に困難かも知れません。

しかし、患者様の痛みを中心とした訴えが我々医療サイドに伝わり、それに対する正確な診断が下され、どの様な治療方針で進めて行くかが決まり、それを患者様にしっかりと御理解頂けるようお答えし、正確な手術および適切なリハビリテーションが進んで行けば、基本的には手術を受けられた患者様が「天命を全うする」その日まで「痛くない股・膝関節」で過ごされる事は、決して不可能では無いと常日頃から信じて診療に従事しています。

「人工関節、いつまで保つのか？」の御質問に「一生痛くありませんよ」とお答え出来ればこの上ない喜びと感じ、日々患者様にご満足頂けるような医療を御提供出来ますよう、今後も職員一丸となって努力を継続したいと思っております。

今年も人工関節友の会イベントが、参加される皆様にとって有意義なひとときとなります事をお祈り申し上げます。